

✉ 卒業生からの手紙



英語・英語圏文化専攻 教員

北川 宣子 前田 隆子

卒業してから 11 年目に入るカリタス女子短期大学、当時英語科の卒業生山田麻里子さんから便りが届きました。カリタスの卒業生の進路パターンにはいく通りがあります。それは「卒業後に就職する人」、「国内の大学に編入学する人」、「留学する人」、そしてもう一つのパターンは「就職後に留学という夢を果たす人」ですが、麻里子さんはこの4番目のケースにあたります。今までアメリカの大学に編入学した人たちは何人もいますが、麻里子さんは、教育制度の違うイギリスの大学に再入学し、Sociology(社会学)から English Literature(英文学)へと専攻を変えながら、めでたくイギリスの Liverpool Hope University College を卒業されました。二専攻で学ぶことでイギリスの社会を知り、そして英文学を通して昔の社会も垣間見ることができたと同時に日本の社会との比較もできたそうです。通算 4 年半のイギリス留学で、TOEIC のスコア - は 950 点(満点は 990 点)にまで到達しました。現在はその英語力を生かし、英会話学校でネイティブ・スピーカーの講師と肩を並べて教えながら、新たな夢の実現を目指しています。それでは、麻里子さんのメッセージを日本語と英語でお楽しみください。

「目標を持ちつづけること」 山田麻里子

(神奈川県立元石川高等学校出身 1994 年 3 月卒業 英会話学校に勤務の後 イギリスへ留学 2004 年リバプールホープ大学卒業)

2004 年夏、カリタスを卒業して 10 年になる今、念願だったイギリスのリバプールホープ大学を卒業しました。イギリスの大学の勉強は決して楽なものではありませんでしたが、今思えばこの大変な道を選んだのはカリタスで教育を受けたからこそだと言えます。高校では英語の成績はまずまずだったのですが、初めてカリタスでの授業でネイティブの先生と話をした時、何を言われているのかわからず、またわかってどう答えていいのかかわからず、その悔しさが私の学習意欲を駆りたてていったのです。そしてその意欲は留学をしたいという願望に変わったのです。しかし、願望があっても実現するのは難しく、まず経済的問題、そして家庭の問題もあり、卒業してすぐの留学はあきらめました。それでも何年後かには絶対海外に行きたいと思い、就職先は英会話学校を選び、英語に触れながら貯金をして、4 年後にやっと夢がかなったのです。

カリタスでは卒業後も先生方が熱心に相談にのってくださいます。私も何度先生方の研究室に足を運んだかわかりません。私の度々の訪問にいつも笑顔で話を聞いてくださった先生方に心から感謝しています。

どうやら私は何か目標がないと生きていけないようで帰国してからまた、とても大きな目標を立ててしまいました。それは一流の通訳になることです。もう 30 を過ぎましたが、今の社会は実力さえあれば評価につながると思います。これからは英語を教えながら通訳の学校に通って 35 歳までにはなんとか通訳として働いていたいと思っています。今もそんな夢を語る私にカリタスの先生方は耳を傾けてくださっています。

AIMING HIGHER by Mariko Yamada

In summer 2004, ten years after I graduated from Caritas Junior College, I finally graduated from Liverpool Hope University College. It was not an easy task to study at a British university, however, what made me choose this direction was my educational experience at Caritas. I had had good marks in English at high school, but the lessons at Caritas were completely different from the ones I had experienced before, that is to say, they were more communicative and I could not understand what the native teachers were saying in the very first class. This drove me to study more, and led my desire to study abroad. However, it was very difficult to make this dream come true due to my financial and family problems, therefore, I had to give up going abroad right after my graduation from Caritas. Nevertheless, I still wanted to study abroad, so I chose to work at an English conversation school so that I could use English and earn money for my tuition fees at the same time. Four years later, my dream came true.

Teachers at Caritas always listen to our problems even though we graduated years ago. I do not know how many times I visited my teachers after graduation. However, despite my persistent visits they always listened to my small problems! I am really thankful for their support.

It seems like I cannot live without aiming higher. My next goal is to become a first-class interpreter. I am over thirty now, but society accepts those who have real ability. I am teaching English now, and I would like to become a professional interpreter before I become 35.

I still visit Caritas and the teachers still listen to my dreams.

英米文学の故郷 第15回 ダブリン

英語・英語圏文化専攻 教員
伊藤 知子



ジョナサン・スウィフト

ジョナサン・スウィフト(Jonathan Swift, 1667-1745)は、風刺文学の代表的な作家です。アイルランドのダブリン(Dublin)に生まれました。ホイズ・コート7番地(7 Hoey's Court)の生家は残っていませんが、シップ・ストリート(Ship Street)には彼の生誕を示す銘板があります。DublinのTrinity Collegeに進学して学位を得ました。1690年頃に元外交官サー・ウィリアム・テンブル(Sir William Temple)の秘書になり、イギリス、サリー州(Surrey)ファーナム(Farnham)にあるテンブルの屋敷ムーア・パーク(Moor Park)に住みました。1699年にTempleが死んだのでアイルランドに帰り、聖職につきます。1704年に『桶物語』(A Tale of a Tub)と『書物合戦』(The Battle of the Books)を1冊の本として出版して文壇に出ました。『桶物語』はキリスト教

の歴史とその状況を風刺したものであり、『書物合戦』は古代と近代との優劣論争に関して論じたものでした。1713年にはダブリンのセント・パトリック大聖堂(St. Patrick's Cathedral)の司祭長となります。ここには、スウィフトの胸像があり、更に彼の説教壇、テーブルや椅子も残されています。その後亡くなるまでの32年間は時折ロンドンを訪れることもありましたが、主にセント・パトリック大聖堂公邸(St. Patrick's Deanery)で生活しました。晩



セント・パトリック大聖堂

年は心身が衰え、1742年頃から発狂状態になり、1745年に大聖堂公邸にて死去しました。大聖堂の南の側廊に墓があります。

彼の代表作『ガリバー旅行記』(Gulliver's Travels, 1726)は船医ガリバーが語る4つの旅の物語です。「小人の国」、「巨人の国」、「ラビュータ島」、「馬の国」でのガリバーの体験談という体裁をとって18世紀イギリスの政治や社会への辛らつな風刺がなされています。ダブリンを訪れたのは2000年8月でした。授業の中で長年にわたってスウィフトについて説明したり、『ガリバー旅行記』の原文を学生たちと読んだりしてきましたが、ようやく彼のゆかりの地を訪ねることができた……という思いがしました。



Kids' ABC Room 2004 in あざみ祭

英語・英語圏文化専攻 教員
前田 隆子

今年で4回目を迎えたあざみ祭でのKids' ABC Roomは、今回は5～6歳児グループと、小学校低学年グループを対象に英語の授業を行いました。授業内容は以下の通りです。



5～6歳児対象: テーマは、「お魚たちと遊ぼう!」目標は、英語であいさつが出来る、英語で「色」と「海の生き物」の名前がわかる、英語の歌が歌える、オーストラリアを知る、ということでした。最初に海の生き物の名前を覚え、次に'Crab, Dolphin, Jellyfish'というJazz Chantsを踊りながら歌い、その後覚えた単語を使った「魚つりゲーム」に挑戦しました。この時が一番盛り上がったようです。その後豪州への留学から帰国した学生にオーストラリアでの体験を日・英両言語で話してもらい、最後に紙バックに指示通りの魚のシールを貼って、あいさつをして終わりました。



小学校低学年対象: テーマは、「Let's go to the zoo!」目標は英語であいさつが出来る、英語で動物の名前が言える、英語での動物の泣き声表現がわかる、英語の歌が歌える、ということでした。最初に'Old MacDonald Had a Farm'を元気に歌い、その後動物の名前とその泣き声を英語で覚え、それらの表現を使って「フルーツ・バスケット」というゲームを楽しみました。みんな大変興奮した様子でした。その後紙芝居で『大きなかぶ』を見て、最後に紙バックに指示通りの動物のシールを貼って、あいさつをして終わりました。

ここで、授業を担当した学生たち(一部)のコメントを紹介します。

・私のグループでは、Disneyの二モをテーマに45分間の授業を行いました。去年教育実習に行った私は、中学生の教科書を使って文法等を教えるティーチングプランとは異なり、構成に悩みました。実際おこなってみると、また違った大きな喜びを得ることが出来ました。先生という立場を経験して感じたことは、どんな時でも構成がしっかりしていなければ、授業は成功しないということを改めて感じました。(竹花美砂)

・あざみ祭の前日、リハーサルをおこなった時は、正直子供たちに英語を教えることができるのか不安でした。本番は子供たちもたくさんいて、保護者の方も集まっていたので、とても驚きました。緊張しましたが無事に教え、遊んであげることができて、良い経験ができました。(井上優)

・最初はしたら小学生に分かりやすく、楽しく英語を教えることができるか悩みましたが、本番はとても楽しくできました。これがきっかけで英語や遠く離れた外国のことに興味を持ってくれたらと思います。(飯田友梨子)

・40分間の授業をするために事前にたくさんの計画を立てるのは初めての経験でした。ただ英語を教えるだけでなく、授業の中に楽しい要素、歌やゲームや紙芝居など様々なアクティビティーを組み込むことが大切だということ学びました。(高山恵里花)

・私は今回 Kids' ABC Room に参加できて本当に良かったと思います。最初は色々不安もありましたが、みんなが協力してくれたし、また参加してくれた子供たちも素直で積極的に授業に参加してくれたので楽しくできました。(矢野礼子)

・ゲームでは、4匹の動物を使いフルーツバスケットを行いました。2~3回やると子どもたちは"mouse!"とか"chick"と大きな声で言うことができ、英語を使ってのゲームも楽しいということを伝えることができたと思いました。(鈴木ゆり)

先生が学生だった頃

このコーナーでは、カリタス女子短大の先生方がどのような学生時代を送ったのか、学生によるインタビュー形式でお届けします。第15回目のゲストは、コミュニケーション文化専攻の浅井亜紀子先生です。インタビュアーは本専攻2年生の中山なつみさんです。



浅井 亜紀子 先生

Q: 先生がご卒業された東京女子大学では何を専攻されたのですか？

A: 英米文学科でアメリカ文学の勉強をしました。

Q: 学生時代には何に興味をお持ちでしたか？

A: 大学ではESSで活動をしていました。大学対抗の試合があり、その試合に向け合宿をし、作戦を友だちと一生懸命練りました。ESSの友だちとは今もとても仲良しです。

Q: 先生は留学の経験はおありですか？

A: 会社に勤めてからですが、サンフランシスコの大学に2年半留学しました。実用的スピーチコミュニケーション専攻で日米のコミュニケーションスタイルの研究をしました。子育てをしながら大学へ通い、初めてのことが多く、全て自分でしなくてはいけなかったのでもとても大変でした。でも、今はもう一度海外で暮らしてみたいと思っています。

Q: 先生の趣味についてお聞かせください。

A: 忙しいので趣味に没頭する時間があまりないのですが、子どもと遊んでいる時がほっとします。パンやケーキを焼くのが好きで、それを皆に食べてもらうことが嬉しいです。あと、小さい頃からピアノを弾くことが好きで、時々弾きます。

Q: 先生はコミュニケーション文化専攻の先生ですが、英語圏の学生をどのように感じていらっしゃいますか？

A: 英語に興味があるだけ、海外の文化に関心があり、大学で英米文学科であった私ととても似ていると思います。たどってきた道が同じですからね。関心が近いですので、その芽を伸ばしていけるように応援したくなります。

Q: 人とコミュニケーションをとる上で大切だと思われることをお教えください。

A: まず、相手の立場に立つ。“Put oneself in another's shoes.”です。これはカリタスの精神でもあると思います。瞬時に相手の立場を読み取る力が大切です。また、相手を和ませる笑いやユーモアも大切です。

Q: 最後に学生にメッセージをお願いします。

A: 嫌な時も楽しい時も全部自分が良くなるための準備です。無駄なこととは何一つありません。生まれたからには良い人生が約束されています。自分の意味づけ次第で人生は変わりますよ。よい意味づけが出来るようになるといいですね。

太平洋を越えた人と文化 ～第七回～

英語・英語圏文化専攻 教員
北脇 実千代



近年、大リーグで活躍する日本人野球選手が増えてきました。イチロー(鈴木一朗)、松井秀喜、長谷川滋利など2005年1月の時点で10人の日本人大リーガーがいます。とくに昨年、イチローは、シーズン中の安打数を262として大リーグ記録を塗りかえました。これまでジョージ・シスラーが持っていた記録257安打を84年ぶりに更新したことから、日本のファンだけでなくアメリカのファンも興奮させたことは記憶に新しいところです。またイチローの活躍は、アメリカのアジア系の人たちをとっても喜ばせました。というのも、アメリカ社会において、アジア系の人たちは体格も小柄でスポーツに向いていないという偏見があるからです。イチローの活躍は、そのような偏見さえも一掃してしまうような輝かしいものといえます。

このような大リーガーの登場までに日本の野球界は長い年月を要しました。アメリカで生まれたBaseballが日本に伝わったのは、1870年代。東京大学の前身にあたる東京開成学校のアメリカ人教師ホレス・ウィルソンひろしが紹介したといわれています。1878年には、アメリカ留学から帰ってきた平岡ひろし 熙が新橋アスレチック倶楽部という野球チームを日本で初めて作りました。また、1920年には日本運動協会という日本初のプロ野球チームも誕生します。関東大震災の影響もあって数年で解散に追い込まれてしまいましたが、日本のプロ野球への情熱は消えることなく、1934年には大日本東京倶楽部が設立されました。これが現在の読売ジャイアンツです。その後、プロ野球チームも7球団にまで増え、1936年には巨人-阪神戦も行われました。太平洋戦争が始まり、戦局が厳しくなるとともにプロ野球チームは一時解散となるものの、戦後また復活し、徐々に球団数も増えて現在に至るわけです。

昨年は、新規参入する企業もあり球界再編の動きが出ていますが、日本の野球界は、本場アメリカで通用する選手を輩出するまでに成長しました。昨年11月には大リーグの選抜チームも来日して親善試合を行うなど日米の交流も盛んになっています。このような交流にも長い歴史があります。例えば、大リーガーが初来日したのは1913年のことでした。今から90年以上も前のことです。ちなみに初の日米親善試合が行われたのは70年以上前の1931年でした。このように長年にわたり太平洋を越えて深めた日米の交流も、日本人大リーガーの活躍によって今後ますます活発になっていくといえるでしょう。

Cool Web Site!

英語・英語圏文化専攻 教員 前田 隆子

皆様、新年明けましておめでとうございます。日本でお正月を過ごしていると、この独特な文化を英語ではどのように紹介しようかと悩むことがあります。そんなときは、今日ご紹介するHPをチェックしてみてください。「おせち」や「おとそ」について英語で説明されています。Zodiac Sign (干支) 占いのページもあります。

「日本文化 新年特集」 URL: <http://haradakun.cool.ne.jp/nihonbunka/nihonbunka.html>

Kaleidoscope 第16号はいかがでしたか? 皆さまのご意見・ご希望・ご質問など、お気づきの点を maeda@caritas.ac.jp までお寄せください。

2005年1月15日発行

発行責任者: 北川宣子

編集協力: 東京工科大学大学院

メディア学研究科 渡邊賢悟

カリタス女子短期大学

Caritas Junior College

〒225-0011

横浜市青葉区あざみ野2-29-1

Tel:045-901-5133

Fax:045-901-5066

URL: <http://www.caritas.ac.jp/english>